



再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：下保 修

事業名	地域高規格道路 一般国道431号東林木バイパス		事業	一般国道	事業	島根県								
起終点	自：島根県出雲市矢尾町 至：島根県出雲市東林木町		区分		主体									
事業概要					延長	4.2 km								
一般国道431号東林木バイパスは、山陰道とともに宍道湖・中海圏域を循環し、圏域の一体化を図る地域高規格道路「境港出雲道路」の一部を構成するとともに、現道の線形不良および交通混雑の解消を目的とした、出雲市矢尾町から出雲市東林木町に至る延長4.2 kmの4車線道路である。														
H5年度事業化		都市計画決定なし		H9年度用地着手		H13年度工事着手								
全体事業費		204億円		事業進捗率		46%								
計画交通量		21,900~22,700台/日（平成42年度）												
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	総費用 (残事業)/事業全体 81/179億円		総便益 (残事業)/事業全体 189/196億円		基準年 平成19年								
	(残事業)	事業費：76/174億円 維持管理費：5.0/5.0億円		走行時間短縮便益：155/163億円 走行費用減少便益：25/25億円 交通事故減少便益：8.2/8.5億円										
感度分析の結果：残事業について感度分析を実施														
交通量変動		B/C=3.1（交通量 +10%）		B/C=2.1（交通量 -10%）										
事業費変動		B/C=2.1（事業費 +10%）		B/C=2.6（事業費 -10%）										
事業の効果等														
<ul style="list-style-type: none"> 国土・地域ネットワークの構築（地域高規格道路の位置づけあり） 安全で安心できるくらしの確保（三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる。） 個性ある地域の形成（主要な観光地へのアクセス向上が期待される） <p style="text-align: right;">他5項目に該当</p>														
関係する地方公共団体等の意見														
出雲・美保関間幹線道路整備促進期成同盟会（出雲市など3市6町）より、整備区間指定を受けた箇所の整備促進について強く要望を受けている。														
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等														
出雲市街地部周辺の道路整備（国道9号出雲バイパス等）が進み、近年交通量が増加している。														
事業の進捗状況、残事業の内容等														
これまでに用地取得を約99%完了し、平成16年度に終点側1.2 kmを平面2車線の暫定形で供用開始した。現在は埋蔵文化財調査の終了した区間で改良工事を進めており、当面は暫定形での事業進捗を図る。														
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等														
埋蔵文化財の調査に不測の時間を要している。このため、調査の早期完了を目指して関係部局との連絡調整しながら調査体制を拡充し、事業の促進を図る。														
施設の構造や工法の変更等														
当面は平面2車線による全線供用を図るとともに、完成時の構造規格についてコスト縮減等を検討する。														
対応方針	事業継続													
対応方針決定の理由	以上のことを勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考える。													
事業概要図														
 <p>評価箇所</p>		 <p>東林木バイパス L=4.2 km 事業評価区間</p>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">凡 例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>供 用 中</td> </tr> <tr> <td></td> <td>再評価箇所</td> </tr> <tr> <td></td> <td>うち供用中</td> </tr> </tbody> </table>		凡 例			供 用 中		再評価箇所		うち供用中					
凡 例														
	供 用 中													
	再評価箇所													
	うち供用中													

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。